

- 一覧表にある感染症にかかったときは、法律で定められた「出席停止」となり、「欠席」にはなりません。
- 感染症と診断を受けた場合は、速やかに学校に連絡してください。
- 医師から登校の許可が出ましたら、「診断（治癒）証明書」に記入していただき、登校の際担任にご提出ください。
※「診断（治癒）証明書」はホームページよりダウンロードできます。また、医療機関より発行される証明書でも構いません。

■第1種〈法定伝染病〉

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、鳥インフルエンザ（H5N1）、重症急性呼吸器症候群（SARS）、 新型コロナウイルス感染症	治癒するまで出席停止 ※新型コロナウイルスについては、濃厚接触者である場合や、感染の疑いがある場合なども出席停止とする。
--	---

■第2種〈飛沫感染するもので児童生徒の罹患が多く、学校における流行を広げる可能性が高いもの〉

病名	出席停止期間	主な症状	潜伏期間	感染可能期間
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日経過するまで。	急激な発熱、頭痛、全身倦怠感、咳、鼻水、のどの痛み	1～2日	発病後3～4日
百日咳	特有の咳が消失するまで。または5日間の抗生物質製剤による治療が終了するまで。	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいから咳の後にヒューと音をたてて息を吸う症状が長く続く。	1～2週	発病後4週間
麻疹（はしか）	解熱後3日経過するまで。	発熱、咳、鼻水、目やに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹。	9～12日	発疹の出る5日前から出た後4日間
流行性耳下腺炎（おたふく）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。	発熱、耳の下（両側または片側）が大きく腫れて痛む。食欲不振、嚥下困難。	2～3週	発病前7日から発病後9日間
風疹	発疹が消失するまで。	発熱、発疹、耳の後ろ・首・わきの下などの腫れ、結膜が充血	2～3週	発疹の出る7日前から出た後7日間
水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで。	水泡のある発疹が、体中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出たものからなっていく。	2～3週	発疹の出る1日前から出た後6～7日間
咽頭結膜熱（プール熱）	主症状が消退した後2日を経過するまで。	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ	5～7日	発病後2～3週間
結核	症状により学校医その他の医師において、感染の恐れがないと認めるまで。	初期は自覚症状なし。X線で発見されることが多い。疲労感、寝汗、微熱、肩こり、咳、痰。	1～2か月	治癒するまで

■第3種〈飛沫感染が主体ではないが、学校において流行を広げる可能性があるもの〉

コレラ	症状により、学校医、その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。	米のとぎ汁様の水様便、嘔吐	1～2日	
細菌性赤痢		血便、発熱、しぶり腹		
腸管出血大腸菌感染症（O-157）		激しい腹痛で始まり、数時間後に水様性の下痢。嘔吐、嘔気	4～8日	
腸チフス、パラチフス		高熱、腸出血		
流行性角結膜炎		涙、目やに、異物感、結膜充血	5～7日	発病後2～3週間
急性出血性結膜炎		激しい充血・出血	1～2日	発病後5～7日

■第3種【その他の感染症】

ヘルパンギーナ	出席停止期間については、医師の指示に従ってください。 ※必要があれば、校長が学校医の意見を聞き、第3種の感染症としての措置をとることができる疾患です。	高熱、のどの痛み、発赤、のどの奥に小さな水泡・潰瘍	2～7日	発病後2～3日
溶連菌感染症		高熱、発疹、扁桃腺の発赤・腫れ、のどの痛み、イチゴ舌	2～5日	治療開始後24時間
マイコプラズマ肺炎		発熱、乾性の激しい咳が続く、のどの痛み、胸部X線陰影	2～3週	急性期
伝染性紅斑（りんご病）		両頬に少し盛り上がった蕁麻疹様の発疹、手足に網目状の紅斑、発熱	10～20日	発疹の出る1～2週間前の数日間
手足口病		軽い発熱（2～3日）、小さな水泡が口の中や手足にできる。	2～7日	症状のある期間
RSウイルス感染症		発熱、鼻水、咳、喘鳴、呼吸困難	2～8日	症状前～3週間
感染性胃腸炎		発熱、腹痛、下痢、嘔吐、便が白くなる（ロタ）	1～3日	症状がある期間
流行性嘔吐下痢症（ロタ、ノロなど）				
EBウイルス感染症	発熱、リンパ節腫脹、のどの痛み	4～6週	症状がある期間	